

教科	理科	科目	生物基礎実践	担当	
履修学年	3年	単位数	2	履修区分	普通科文系
教科書	改訂版 生物基礎(数研出版)				
副教材等	問題集:リードLight生物基礎(数研出版)・直前演習「生物基礎」(ランズ) 資料集:スクエア最新図説生物(第一学習社)				

1 学習目標

生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 学習評価

評価の観点		科目の評価の観点的趣旨
a	関心・意欲・態度	生物や生物現象について関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど科学的態度を身に付けている。
b	思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
c	観察・実験の技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
d	知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3 全体計画

期	月	内容の まとめ	単元 (題材)	項目 (学習内容)	評価の観点				単元の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前 期	4	生物基礎の復習	第1編  生物と遺伝子	第1章 生物の特徴  第2章 遺伝子とそのはたらき	○	○	○	○	a: 生物に対する関心を持ち、強い意欲を持って取り組むことができる。  b: 与えられた情報を適切に比較検討し、科学的に考察を行い、根拠を持つて的確に記述することができる。  c: 実験の目的や手順を理解し、的確な操作について指摘し、適切にデータの処理や分析ができる。  d: 与えられた情報を正確に読み取り、各分野に関する知識を統合して適切に推論できる。	レポート  確認テスト  観察  単元テスト	
											5
	前期中間考査										
	6	5	生物の多様性と生態系	第3編	第4章 植生の多様性と分布  第5章 生態系とその保存	○	○	○	○	a: 生物に対する関心を持ち、強い意欲を持って取り組むことができる。  b: 与えられた情報を適切に比較検討し、科学的に考察を行い、根拠を持つて的確に記述することができる。  c: 実験の目的や手順を理解し、的確な操作について指摘し、適切にデータの処理や分析ができる。  d: 与えられた情報を正確に読み取り、各分野に関する知識を統合して適切に推論できる。	レポート  確認テスト  観察  単元テスト
	前期末考査										

後 期	9 5 11	共通テスト演習	過去問を中心とした分野別演習		○	○	○	○	<p>a : 生物に対する関心を持ち、強い意欲を持って取り組むことができる。</p> <p>b : 与えられた情報を適切に比較検討し、科学的に考察を行い、根拠を持つて的確に記述することができる。</p> <p>c : 実験の目的や手順を理解し、的確な操作について指摘し、適切にデータの処理や分析ができる。</p> <p>d : 与えられた情報を正確に読み取り、各分野に関する知識を統合して適切に推論できる。</p>	レポート 確認テスト 観察 単元テスト
	後期中間考査									
	11 5 1	共通テスト演習	本番形式での演習		○	○	○	○	<p>a : 生物に対する関心を持ち、強い意欲を持って取り組むことができる。</p> <p>b : 与えられた情報を適切に比較検討し、科学的に考察を行い、根拠を持つて的確に記述することができる。</p> <p>c : 実験の目的や手順を理解し、的確な操作について指摘し、適切にデータの処理や分析ができる。</p> <p>d : 与えられた情報を正確に読み取り、各分野に関する知識を統合して適切に推論できる。</p>	レポート 確認テスト 観察 単元テスト

#### 4 評点の観点別配点(考査以外も含む合計)

	前期中間	前期末	後期中間	後期末
a	25	25	25	
b	25	25	25	
c	25	25	25	
d	25	25	25	
計	100	100	100	

※変更がある場合は、教科担任が事前に連絡します。

#### 5 授業や課題等に取り組む上での留意点

- (1) 様々な生命現象に興味を持つとともに、そのしくみを考える習慣を身につける。用語1つの意味をただ暗記するのではなく、周辺の知識を合わせて「ストーリー」として理解する。
- (2) 『結果』はもちろん、その『過程』を大切にする。
- (3) 予習・授業・復習のサイクルを確立する。予習の目安は授業1回あたり2ページで、授業を受けて確認し、問題集で復習し定着を図る。
- (4) わからないところはそのままにせず、授業や休み時間等に積極的に質問する。